

令和7年度 事業所における自己評価総括表

事業所
名 放課後等デイサービス ちょあ平塚

保護者
評価対
象者数

60 回答者数

18

従業者
評価対
象者数

18 回答者数

18

事業者
向け自
己評価
表作成
日
注記

事業所の強み

No.	事業所の強みだと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童・保護者の状況に応じて、柔軟かつ丁寧に対応できること。	HUG・電話・送迎時のやり取り等を活用し、活動の様子や必要な情報を共有している。	情報共有の質を維持し、職員間でも同じ情報を確認できる仕組みを強化する。
2	DIDIM等の新しい技術や、5領域を踏まえた多様な活動を取り入れていること。	運動・感覚、認知・行動等のねらいを意識し、DIDIM、制作、ちょあタイム等を組み合わせている。	児童の発達段階に応じた段階設定と評価を行い、活動の質をさらに高める。
3	『楽しい』と感じて通える環境づくりと、成功体験を重視した支援。	得意な活動や好きな活動を支援に取り入れ、できたことを言葉で認め、自信につなげている。	本人の選択や意思表出をさらに支援し、自己肯定感と主体性の向上につなげる。
4	職員数が増え、役割分担や専門性を活かした支援がしやすくなったこと。	児童数に応じた配置やミーティングを行い、必要に応じて職員が個別対応できる体制を整えている。	一部の職員だけに知識や対応が偏らないよう研修と情報共有を継続する。

事業所の弱み・課題

No.	事業所の弱みだと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動内容によってはスペースが狭く、静かな活動と動的な活動の両立が難しい場面があること。	教材・備品や活動の増加により、空間の使い分けが必要になっている。	物品整理、教室の使い分け、活動人数の調整等により安全で使いやすい空間を確保する。
2	保護者同士の交流や、地域・体験活動の機会がまだ十分ではないこと。	個別支援や日常業務を優先する中で、保護者会や体験会を定期化できていない。	保護者会、体験会、地域交流等を計画し、参加しやすい方法や頻度を検討する。

- | | | | |
|---|--------------------------------------|--|--|
| 3 | 災害時対応・避難訓練の内容が保護者に十分伝わっていないこと。 | BCP・安全計画・訓練は進めているが、公表・周知の方法が分かりにくい。 | 避難先、災害別の対応、訓練結果をホームページや案内で明示する。 |
| 4 | 職員数が増えたことで、全職員が同じ水準で支援・情報共有を行うことが課題。 | 勤務日数・経験・役割が異なり、研修や申し送りへの参加状況に差が生じることがある。 | 研修計画、チェックリスト、記録共有等を活用し、全職員への周知と支援の標準化を進める。 |